

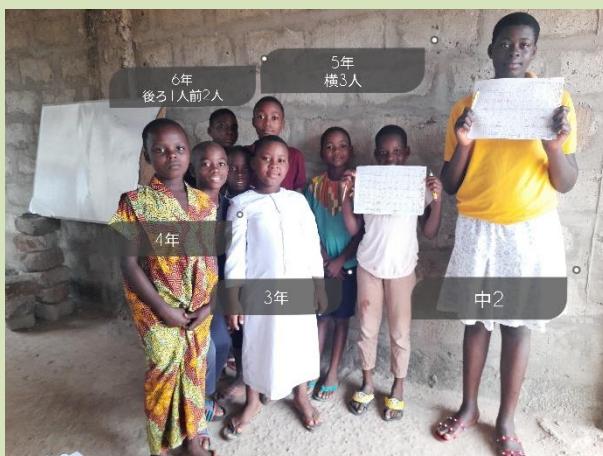
ガーナでそろばんプロジェクト 124 号(2025 年 6 月 30 日)

★★ 2つの教室と子どもの才能を育み可能性をひきだすもの ★★

六月のそろばん教室はアフィフェ村で2回開室予定でしたが、土曜日のそろばん教室、国境行きの乗り合いバスは定員になかなか成らず断念した日もあり一回のみ開室、月末最後の金曜日に行く予定だったクラウディスクールは、途中まで行くも車のアクシデントで止む無く中止となってしまいました。どちらも安全面を考えての決断ではありますが、正直後ろ髪を引かれる思いの出来事でした。土曜日開室となり、教室に来る生徒の人数も落ち着いてきました。土曜日には別の教室でトランペット教室も行なわれていて、今は音出しの練習なのかブーット音が聞こえて来ます。そのトランペット教室には、スクールバケーション中にそろばん教室に通い、「ご褒美のボールペン」を手にした生徒もいて、その練習風景を見ると複雑な思いになりました。トランペット教室の生徒は学校側が推薦したようです。練習を見守る生徒は憧れの眼差しで見ています。そろばん教室で「ご褒美を手にしてトランペット教室の生徒として学校側から推薦されたくらいの教室の生徒」として学校側から推薦されたのでとても優秀な生徒なのでしょう。そろばん教室に居ないのは残念ですが、こうして子どもの才能は育まれ、可能性が引き出されていくことは、とても喜ばしいことです。そんなトランペットの練習の音が聞こえてくる中で、そろばん教室の生徒は、それぞれの練習課題をこなしました。そろばんの珠読みがまだまだ完全ではない子は珠読みプリント、珠読みを何度も指導しても読めない子は make5make10 のプリントを何枚もこなしました。現在、3年生から中学2年生までいるなかで、授業としてそろばん指導をしていなかつた4年生でも珠読みがしつかり出来るようになり基本プリントに入りました。そして、

今回も基本プリントが終わり、「ご褒美のボールペン」を手にした子どもが二人いました。5年生のサビナはスクールバケーション中のそろばん教室の時に、指示した以外のものを勝手に進め私の心の余裕の無さから感情的に怒った日がありました。その日、教室が終わってからみんな帰ったというのにサビナ一人残り「トシコ、バイバイ」と細い指をした小さな手で悲しそうに言つたことは、けつして忘れる事はないでしょう。この日の次の開室でサビナはじめマンツーで指導したい子どもを優先にする為、珠読みプリント、make5make10 プリントを導入したのでした。今回、ボールペンを手にした二人、そして今は珠読みが苦手な子どもたちもまだまだこれからです。練習をこなせば今以上に出来るようになります。今後の指導が楽しみです。

報告 TOSHIKO



子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。

協賛

トモエそろばん様